

◆ 今週のコメント

- ・ 新型インフルエンザA(H1N1)の報告が、6月10日に1例あり、本市での累積報告数は3例となっています。女性、15歳、アメリカ在住で、現地の中学校に在学しており、夏休みのため帰国後、感染が確認されました。症状は、熱感、鼻水、咳となっています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は1.54で、過去5年平均値(1.79)を下回るものの、本年度で最も高い値となっています。年齢階級別では、2～3歳で49.2%を占めています。

◆ 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

今週の定点当たり報告数は1.22で、過去5年平均値(1.05)を上回っており、本年度で最も多くなっています。

詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 4例(肺結核 3例, 肺外結核 1例, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 2例)
【1月以降の累積報告数 183例(肺結核 123例, 肺外結核 45例, 無症状病原体保有者 15例), (喀痰塗抹陽性 61例)】
- ・ 新型インフルエンザ等感染症:新型インフルエンザA(H1N1) 1例 【1月以降の累積報告数 3例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.18	12
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.80	197
	② 水痘	1.54	63
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.22	50
	④ 突発性発しん	0.54	22
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.22	9
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、鼻咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体 (報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体 (報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
インフルエンザウイルスB型(2)	インフルエンザ(第15週)×2	NP×2	血清型病原大腸菌(1)	感染性胃腸炎(第16週)	FC
A群ロタウイルス(2)	感染性胃腸炎(第14週)×2	FC×2	黄色ブドウ球菌(4)	かぜ症候群(第15週)×3 かぜ症候群(第16週)	NP×4
アデノウイルス1型(1)	かぜ症候群(第14週)	NP	A群溶血性レンサ球菌(4)	発疹症(第15週) かぜ症候群(第15週)×2 インフルエンザ(第15週)	NP×4
アデノウイルス2型(2)	かぜ症候群(第23週) 感染性胃腸炎(第15週)	NP FC	肺炎球菌(3)	発疹症(第15週) かぜ症候群(第14週, 第15週)	NP×3
アデノウイルス5型(1)	かぜ症候群(第14週)	NP	インフルエンザ菌b型以外(1)	かぜ症候群(第15週)	NP

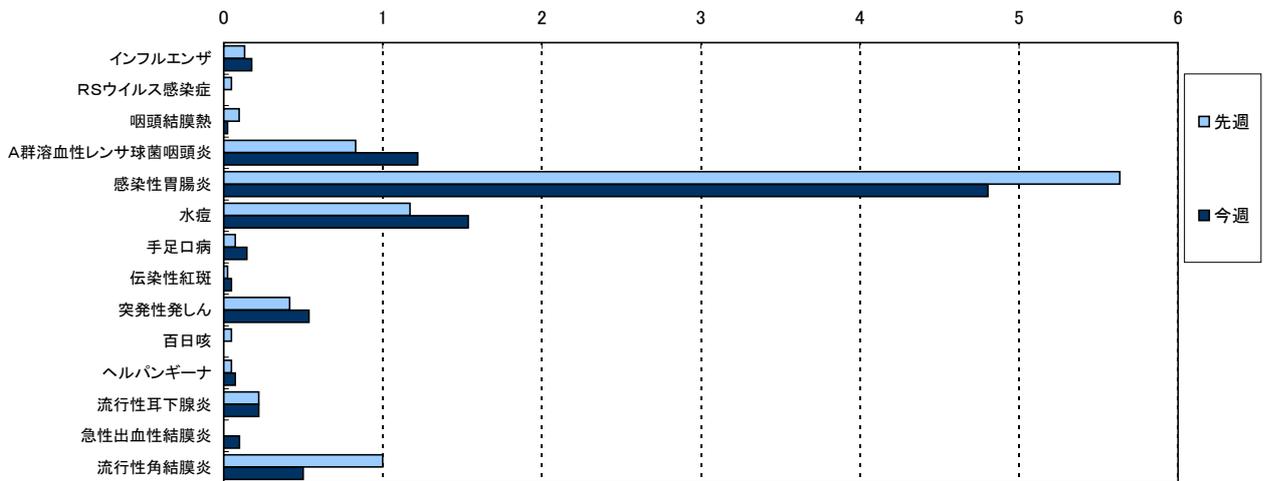
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

(注)京都市のデータは、平成21年6月11日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

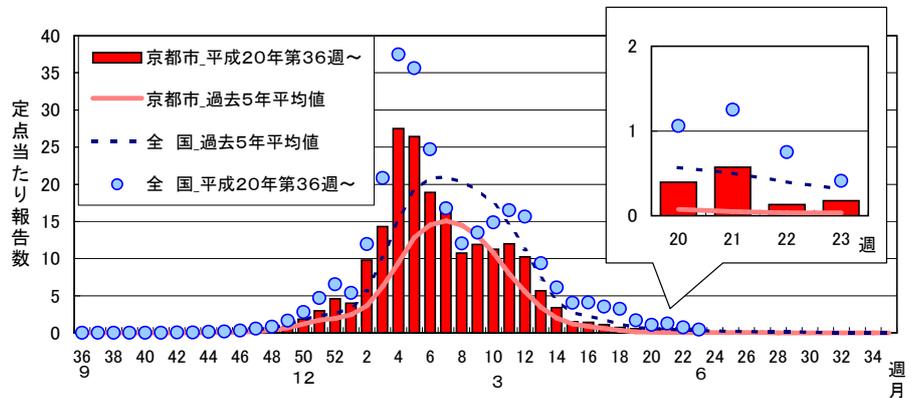
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第23週)と先週(第22週)の定点当たり報告数の比較



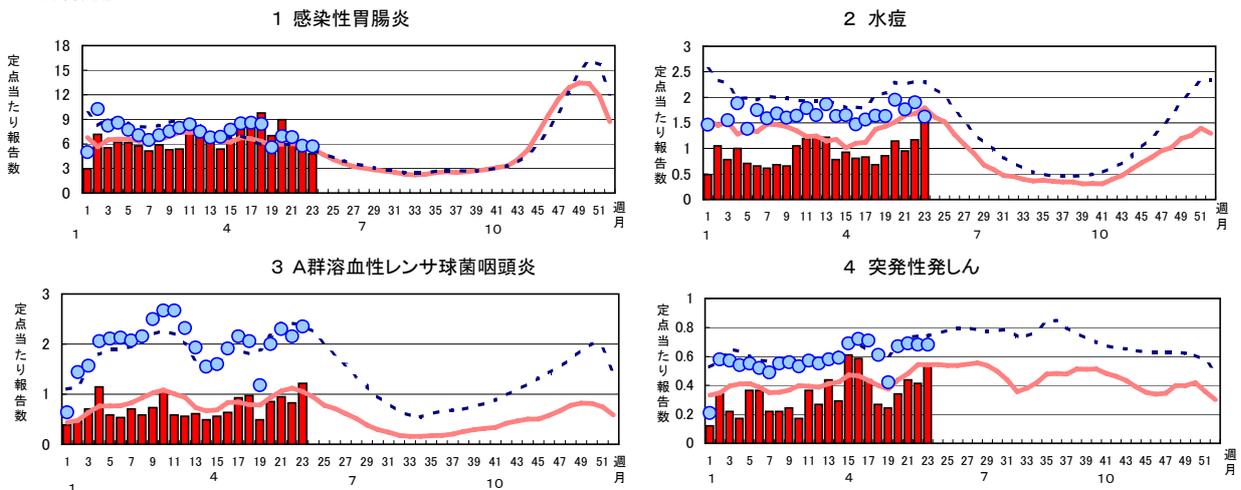
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第19週	39
第20週	27
第21週	39
第22週	9
第23週	12
累積報告数 (第36週以降)	13615

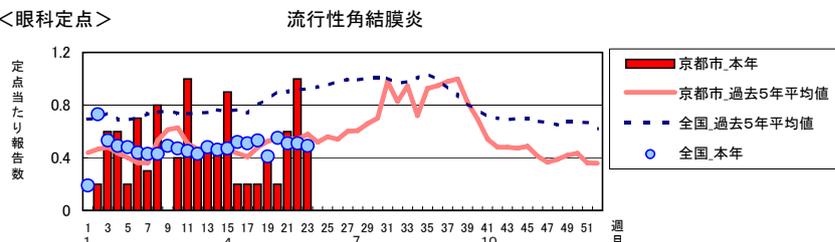


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



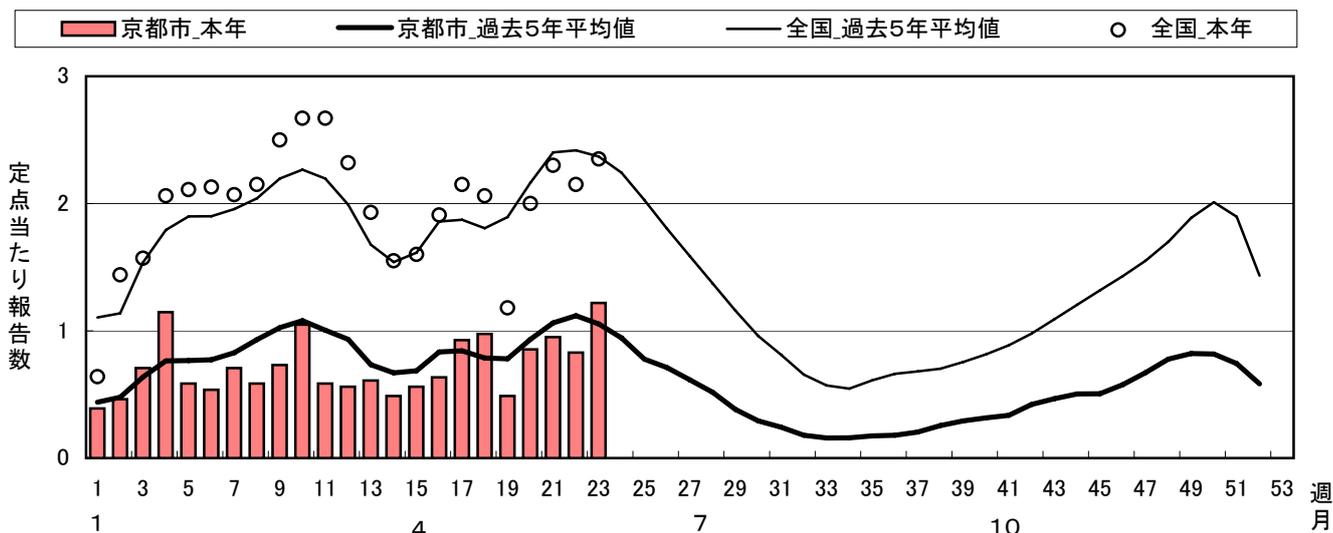
<眼科定点>



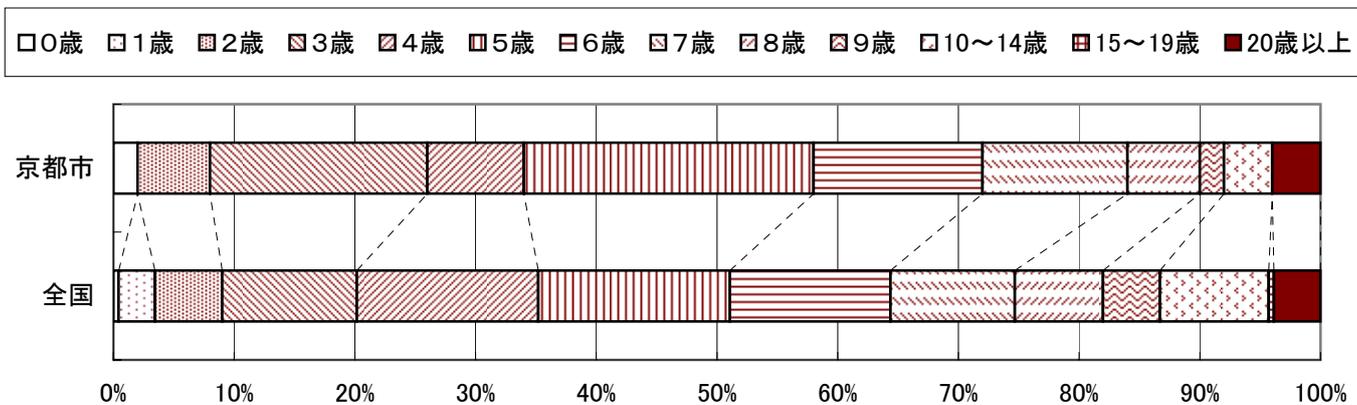
今週(第23週)のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

今週の定点当たり報告数は1.22で、過去5年平均値(1.05)を上回っており、本年で最も多くなっています。本市及び全国の年齢階級別割合をみると、本市及び全国共に、5歳が最も多くなっています(本市 24.0%、全国 15.7%)。次いで、本市では3歳(18.0%)、全国では4歳(14.9%)となっています。行政区別をみると、過去5年平均値を上回っているのは、11行政区中7行政区となっています。

本市及び全国の報告数の推移



本市及び全国の年齢階級別割合



行政区別定点当たり報告数

